

函館市

彦坂 天平

1.概要と歴史

1.1 地名の由来

室町時代の享徳 3 年(1454 年)、津軽の豪族 河野政通が宇須岸(ウスケシまたはウシヨロケシ：アイヌ語で湾の端の意)と呼ばれていた漁村に館を築き、この館が箱に似ているところから「箱館」と呼ばれることになった。

江戸時代には、その箱館は高田屋嘉兵衛が拠点とした箱館として蝦夷地交易の場として栄え、松前藩の役所が置かれた。蝦夷地が天領となると幕府の奉行所がおかれた。

だが、1868 年、戊辰戦争後期、榎本武揚らが箱館を占領し蝦夷共和国を宣言するという箱館戦争が勃発した。この戦争の中で箱館の五稜郭は蝦夷共和国側の拠点となり、新政府軍との戦いの地になった。

明治 2 年(1869 年)、この戦いの結果新政府軍が勝利し、榎本武揚らが降伏、新政府軍によって蝦夷が北海道となり、箱館も函館と改められた。

1.2 歴史

1854 年、日米和親条約により補給港となり、1859 年の日米修好通商条約により、日本初の国際貿易港として開港、外国人居留地も設置された。箱館戦争を経て、幕末の開港以来、港の発展と共に住宅地も広がり、明治の開拓使時代には出張所や支庁が置かれた。その後それらが廃止され北海道庁が設立されるまでのわずかな期間には、函館県の県庁所在地でもあった。このような経緯で道南地方の中心地としての礎が築かれ、今日では主だった国の出先機関や北海道の出先機関である渡島支庁などの行政機関が一通り所在している。

地理的にも本州に近いこともあり、明治時代からフェリーなどの海運業が発達し、本州との連絡のための要所として物流の結節点となっている。

高度経済成長期には、地場産業の要である造船とその関連産業が大いに賑わい活気に溢れていたが、石油ショックをきっかけに漁業や海運業に大きな損害を受け、函館市の産業に暗い影を落とした。バブル崩壊後も経済がなかなか立ち直らず、以前よりさらに開きビルなどが目立つようになり、現在では経済の悪化に対処するべく企業誘致を進めるとともに、20 世紀末からは情報系大学の設立による「IT」産業の育成や「国際水産・海洋都市構想」に基づく試みなど新たな地域発展に向けての取り組みが行われている。

図 函館市の位置



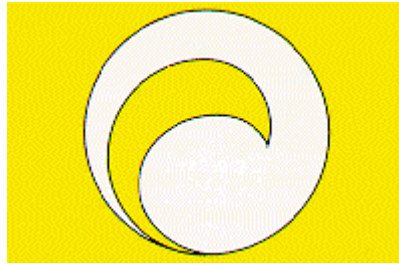
出典：wikipedia

函館市略年表		
年代		備考
1454 年	「河野政通」が宇須岸と呼ばれていた漁村に館を築く	箱館という名で設立
1854 年	日米和親条約によって補給港となる	
1859 年	日米修好通商条約により、日本初の国際貿易港として開港	外国人居留地も設立
1868 年	戊辰戦争後期、榎本武揚らが箱館を占領。蝦夷共和国を宣言	箱館戦争
1869 年	明治新政府により箱館から函館に改称する	
1899 年	渡島国亀田郡に函館競馬場設立	日本最古の競馬場
	函館、亀田郡亀田村の一部と合併し、区制施行「函館区」	函館山に要塞完成
1900 年	函館要塞司令部設置	
1902 年	相次ぐ村の合併によって亀田村、湯川村、銭亀沢村、戸井村が設立	2 級町村に指定
1906 年	亀田郡尻岸内村が 2 級町村に指定される。	
	茅部郡臼尻村、熊が合併し臼尻村となる	2 級町村に指定
1907 年	明治 40 年函館大火	
1919 年	亀田村が 1 級町村、榎法華村が 2 級町村に指定される	
1922 年	函館区（当時）が市制施行、「函館市」に	
1923 年	湯川村が一級町村に指定される	
1927 年	函館要塞司令部、津軽要塞司令部に改称	
1934 年	昭和 9 年函館大火	
1935 年	函館大火で傷ついた市民の慰撫・復興祈念のために、函館港まつりはじまる	函館港開港 77 周年
1936 年	湯川村が湯川町に町制施行される	
1939 年	湯川町が函館市に編入合併	
1945 年	函館空襲、西部地区及び青函連絡船に被害	この年、終戦
1950 年	函館競輪場が開設される	
1954 年	洞爺丸事故発生	死者乗客乗員合計 1430 名
1959 年	茅部郡尾札部村が臼尻村と合併し、南茅部町に町制施行される	
1961 年	函館空港開港	
1962 年	亀田村が亀田町に町制施行される	
1964 年	尻岸内村が尻岸内町に町制施行される	
1966 年	亀田郡銭亀沢村が函館市に編入合併	
1968 年	戸井村が戸井町に町制施行される	
1971 年	亀田町が亀田市に市制施行される	
1973 年	亀田市が函館市に編入合併される	
1976 年	ペレンコ中尉亡命事件発生、Mig-25 が函館空港に強行着陸	中尉はアメリカに亡命
1981 年	函館港祭りにてイカ踊りが初披露される	
1988 年	青函トンネルと JR 津軽海峡線開業	青函連絡船廃止
1993 年	テレビ北海道（TVH）函館送信所開局	
1995 年	全日空機ハイジャック事件発生。	
2005 年	中核市指定	

1.3 市章・市の木・花・鳥・魚

天然の良港函館港は、津軽海峡に突出した岬の角に抱かれた形をしており、海水が深く湾入して巴状になっているところから、俗に「巴の港」といわれている。
昭和 10 年 7 月 13 日に制定

函館市市章



出典：函館市市役所 HP

おんこ（いちい）



昭和 50 年 4 月 1 日制定
出典：函館市市役所 HP

つつじ（やまつつじ）



昭和 50 年 4 月 1 日制定
出典：函館市市役所 HP

ヤマガラ



昭和 62 年 5 月 10 日制定
出典：函館市市役所 HP

イカ



平成元年 8 月 1 日制定
出典：函館市市役所 HP

2. 地理と気候

2.1 地理

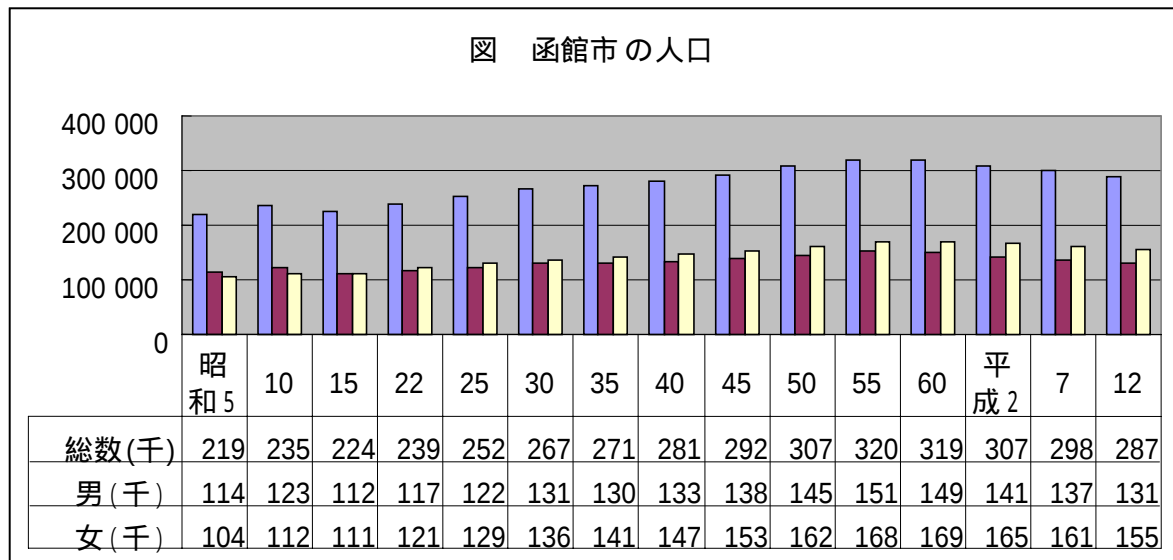
函館市は渡島半島の南東部、東経 140 度 44 分、北緯 41 度 46 分（函館市市役所）に位置し東・南・北の三方を太平洋・津軽海峡に囲まれ、西は北斗市・七飯町・鹿部町と接している。（図 参照）

2.2 気候

普段、函館市の気温は日本海を流れる暖流である対馬海流の影響によって、北海道の都市としては冬の寒さは厳しくなく、夏の平均気温はむしろ札幌より低い。このため函館は日本では珍しい西岸海洋性気候（気温や降水量の年較差が大きいこと、西岸ではないことなどから、典型的な西岸海洋性気候ではない。）に分類される都市である。

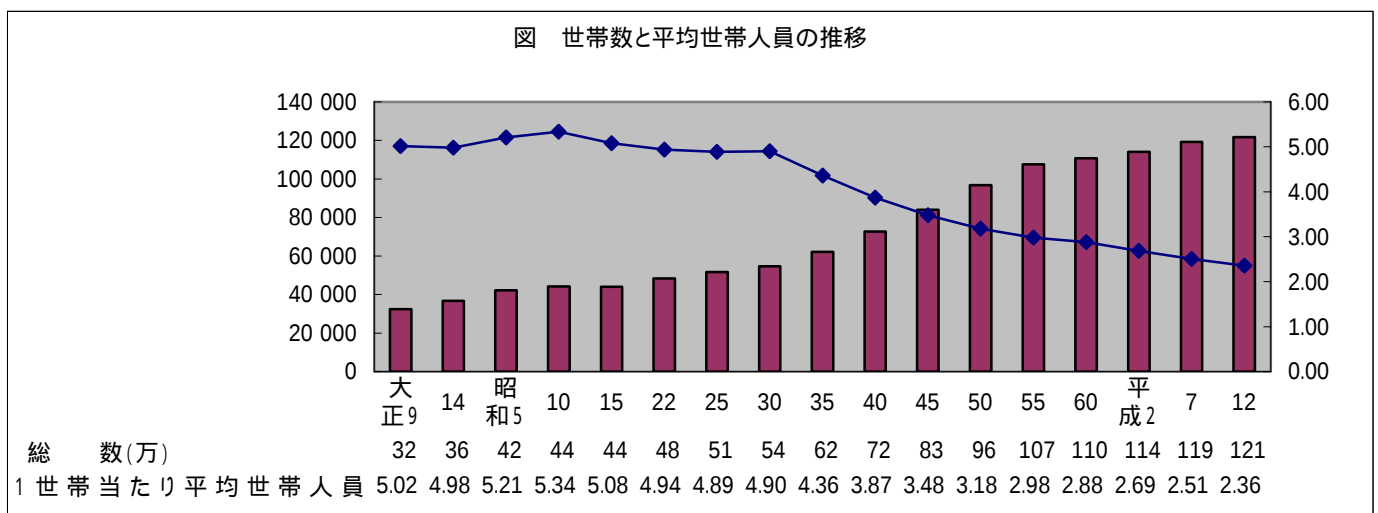
3.人口・世帯数の推移

3.1 人口の推移



図のように函館市は人口が増加傾向にあった。だが、バブル経済の崩壊や少子化などが原因で昭和60年をピークに人口が減少傾向にある。

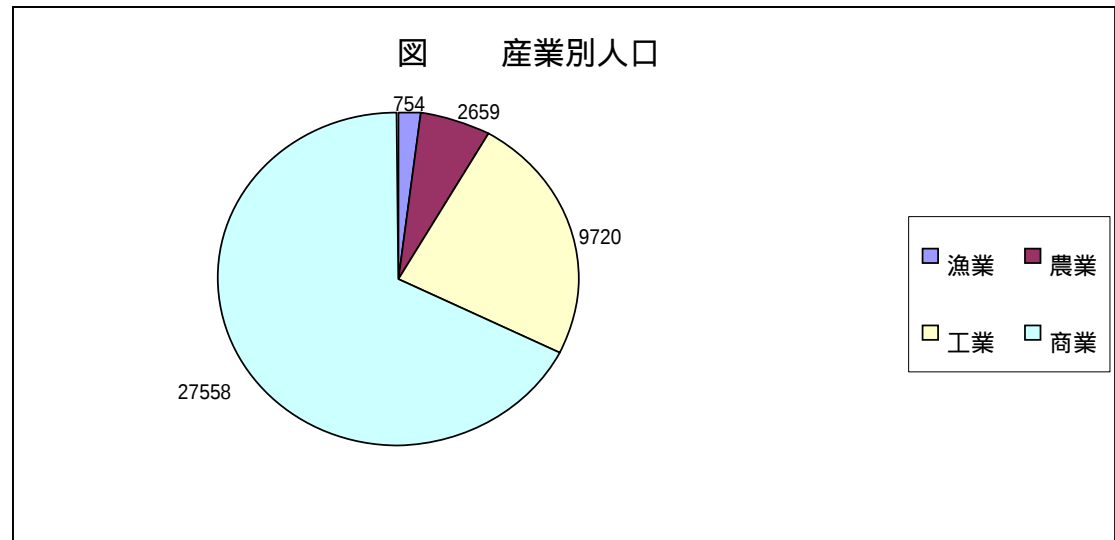
3.2 世帯数と1世帯あたりの構成員の数の推移



図をみてわかるように、近年では核家族化の進行などで1世帯あたりの平均世帯人員が戦前の半分以下になっている。だが、かわりに世帯数の総数は3倍以上になっていることがわかる。

4.産業

4.1 産業別人口



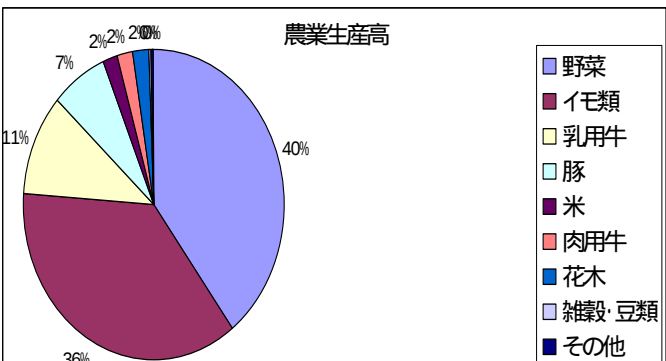
図を見ると、商業従事者が全体の 3 分の 2 をしめており、それに比べて第 1 次産業である農業と漁業従事者人数が非常に少なくなっているのがわかる。この原因として、過疎化によって農業の跡継ぎがいなくなったり、漁船の燃料である石油の価格の高騰が考えられる。

4.2 農業

函館市の農業は水稲と馬鈴薯、ダイコン、ニンジンの主力 3 品目を筆頭に道内シェア第 3 位の生産量を誇るカブやキャベツ、白菜などの多種多彩な野菜を生産している。

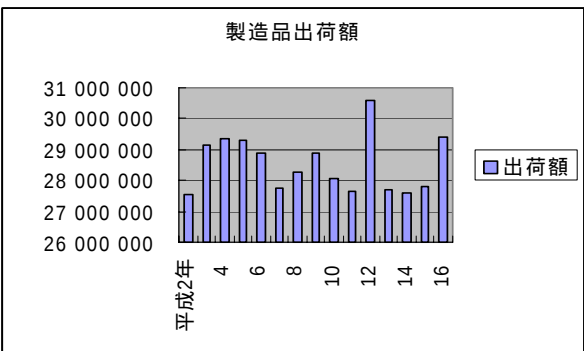
畜産業では渡島南部地域の酪農を背負っていることでも知られ、肉用牛「はこだて和牛」の生産も着実な伸びを見せている。また、乳用牛も豚同様に高い生産量を示し、なかでもバターやチーズなどの乳製品の品質の高さには定評がある。

これらの農産物の農業生産高は約 32 億 5 千万円となっており、図はその内訳を示している。



4.2 工業

函館市は製造品出荷額で平成 16 年に 2900 億円ほど生産している。その中で特に力が入っている分野として約 1000 億



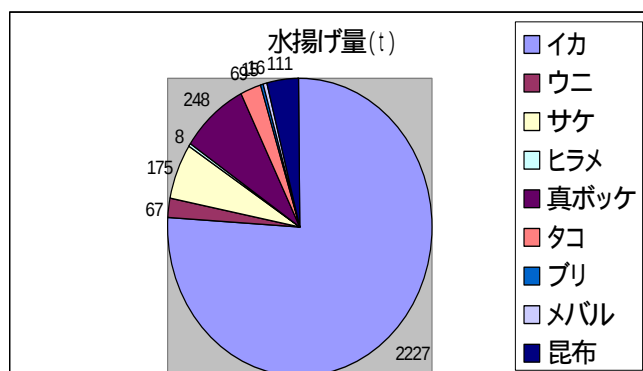
円生産している飲料・たばこ・飼料製造業がある。

だが、最近では石油価格の高騰などが原因で企業に負担がかかり、雇用の問題なども発生している。

4.4 漁業

函館の港は、全国でもいち早く開港した貿易港であり、北の玄関口、北洋漁業の拠点として発展してきた。

函館市漁業協同組合は、イカをはじめ、鮭、タコ、ウニ、真昆布、最近話題のガゴメ昆布など、今もなお良質な海産物が豊富に採れる道内屈指の良港である。



5. 観光名所

5.1 五稜郭タワー

函館の名所としてあるのがまず、五稜郭タワーである。地上約 90 メートルの展望台から、史跡五稜郭や函館市内、その近郊を俯瞰眺望でき、展望台には、五稜郭の歴史を綴った展示スペース「五稜郭歴史回廊」がある。

○ アクセス方法：

函館バス 「五稜郭（電停前）」下車、徒歩 15 分

もしくは 「五稜郭公園入口」下車、徒歩 7 分

市電 湯の川行きに乗車 「五稜郭公園前」下車、徒歩 15 分

五稜郭タワー



出典：函館名所めぐり（HINET）

5.2 函館明治館

つぎに函館明治館というものがある。

昭和 30 年代まで現役の郵便局として使われていたが、昭和 58 年から函館明治館となり、ガラス工房や世界のオルゴール回廊があり、アンティークオルゴールのコンサートも楽しむことができる。

○ アクセス方法

大型駐車場完備

JR 函館駅より徒歩 10 分

市電十字街徒歩 3 分

市電魚市場通りから徒歩 3 分

函館明治館



出典；函館名所めぐり（HINET）

5.1.3 道の駅なとわ・えさん物産店

函館市街地から国道 278 号線沿いに車で約 50 分。
遠方には活火山恵山を望み、眼下には魚の宝庫として知られる津軽海峡が広がる。

キャンプ場や多目的広場、レストラン等も併設する

施設内の物産館では、鮮魚の販売と提供、近隣の特産品などを扱っており、恵山町ならではのヘルシーな昆布ソフトクリームも販売している。

また、活火山恵山の中腹にも駐車場が完備されており、山頂まで登山することができる。

道の駅なとわ・えさん物産店



出典：函館名所めぐり（HINET）

5.1.4 路面電車

函館市における路面電車の歴史は、明治 30 年(1897 年)に、北海道で初めて走った馬車鉄道が始まりであった。大正 2 年(1913 年)には北海道で最初の路面電車が誕生し、東雲町～湯の川間(5.83Km)で運行が開始された。

昭和 18 年(1943 年)には電力会社が経営していた路面電車が現在の市営事業に移行され、函館市交通局が誕生し市電として市民や観光客の足として親しまれている。

乗車料金として通常では、初乗り 200 円で、その後は乗車距離に応じた「対キロ区間制」(200 円から 250 円の 4 段階)というようになっている。

他にも回数券や一日乗車券、プリペイドカードとして「イカすカード」(図)などでの料金支払い方法がある。これらで函館バスも乗車することができ、乗車料金も通常金額よりお得になる。

図 イカすカード



出典：函館市交通局 HP

5.2 祭り

函館市で1年に行われる祭りの数は実に多くのものがある。

1～2月には「五稜星の夢」、2月には「函館冬フェスティバル」、5月に「箱館五稜郭祭り」、

7月上旬に「大門祭」、8月に「函館港まつり」がある。

「五稜星の夢」とは1989年より始まったイルミネーションであり、特別史跡五稜郭の堀を電球で飾り五稜星形を浮かび上がらせるものである。

電球の灯かりで浮かび上がった五稜星型は、冬の五稜郭の美しさを全国にアピールするためのイベントである。このイベントの企画・運営は市民の有志のボランティアによって行われ、電気代等の費用は一口500円の募金によってすべてまかなわれている。

「函館冬フェスティバル」とは「はこだてイルミネーションファンタジー」と称され、基坂・八幡坂・二十間坂、元町公園などが電飾で飾られ、2月の17:00～22:00の間に点灯されるものである。

「箱館五稜郭祭」は日米和親条約に基づき、ペルリが其艦隊を率いて箱館に来航してより明治2年5月（1869年）箱館戦争終結までを題材として維新行列のパレードに再現したものである。このパレードでは榎本政権軍、征伐軍、砲兵隊を再現した行進が行われる。見所として、政府軍と征伐軍による見る者を圧倒する非常に迫力のある白兵戦などのパフォーマンスなどがある。

「大門祭」とは函館市内の大学、短大の学生が企画・運営する合同学生祭である。会場ではフリーマーケットやロボットの展示、メインステージで学生バンドやカキ氷の早食い大会など多彩なイベントが行われた。

「函館港祭」では箱館開港パレード、花火大会、ワッショイはこだてなどの行事が行われる。ワッショイはこだてとは、パレードに参加された団体を対象にイカ踊り、港踊りを各種部門別にアピール賞、コスチューム賞、リズム賞などの多くの賞を設け審査を実施しているものである。

函館冬フェスティバルの様子



出典：観光名所写真

箱館五稜郭祭の様子

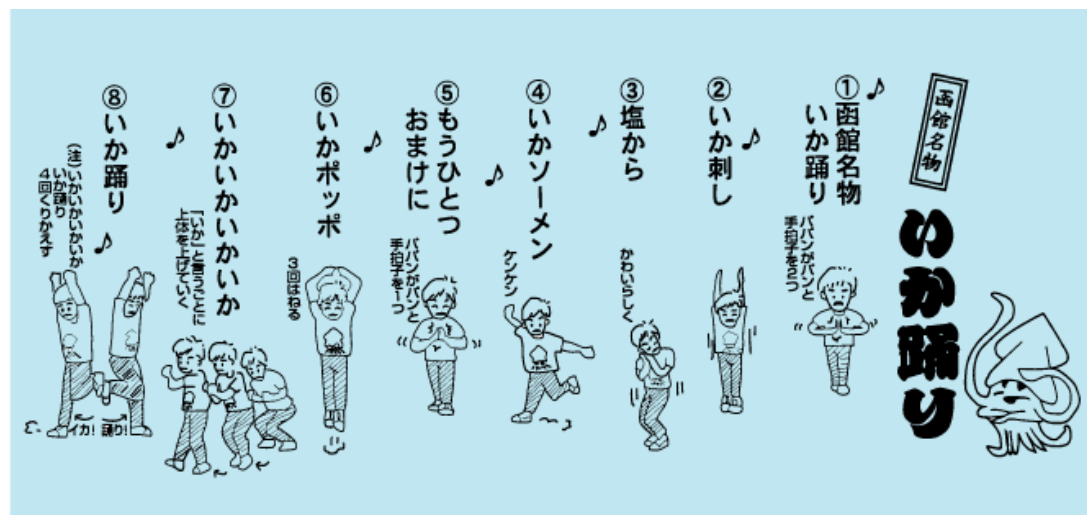


出典：箱館五稜郭祭 HP

函館港祭りの様子



出典：函館港祭り HP



出典：函館港祭り HP

参考 HP

函館市市役所 HP <http://www.city.hakodate.hokkaido.jp/>

道南の農業 HP <http://www.hk.hkd.mlit.go.jp/nogyo/001.html>

函館市漁業協同組合 HP <http://www.hakodate-gyokyou.jp/>

函館名所めぐり (HINET)

http://www.hakodate.or.jp/sight/goryokaku/goryokaku_kengaku.htm

五稜星の夢 HP <http://hakodate.to/hoshinoyume/>

観光名所写真 http://www.ks-pc.com/kankou/images/fuyu_fesuthibaru.jpg

函館港まつり HP <http://www.hakodate-minatomatsuri.org/>

箱館五稜郭祭 公式サイト <http://www.hotweb.or.jp/goryokaku-sai/>

函館市 wikipedia <http://ja.wikipedia.org/wiki/%E5%87%BD%E9%A4%A8%E5%B8%82>